



健康診断と一緒に！

20歳からは子宮頸がん検診

Q. 子宮頸がんって？

「子宮頸がん」とは、女性の子宮頸部にできるがんのことです。子宮頸がんの発生にはヒトパピローマウイルス（HPV）と呼ばれるウイルスが関わっています。このウイルスは、子宮頸がんの患者さんの90%以上で見つかることが知られており、HPVが長期にわたり感染することでがんになると考えられています。1)

Q. 何歳から注意が必要？

ピークは30～50歳代ですが、20歳代から子宮頸がんにかかる方が増えてきます。

子宮頸がんは、初期には全く自覚症状がありません。検診で早期に発見されれば比較的治療しやすいがんですが、進行した場合には治療が難しいとされています。早期発見・早期治療が極めて重要です。

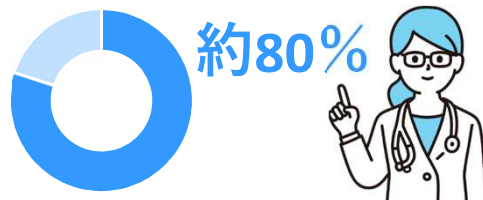
20歳になったら、2年に1回は子宮頸がん検診を受けましょう！

Q. どんな検査を受けるの？

「子宮頸部細胞診」は、がんによる死亡率が減少する効果が認められている検査です。

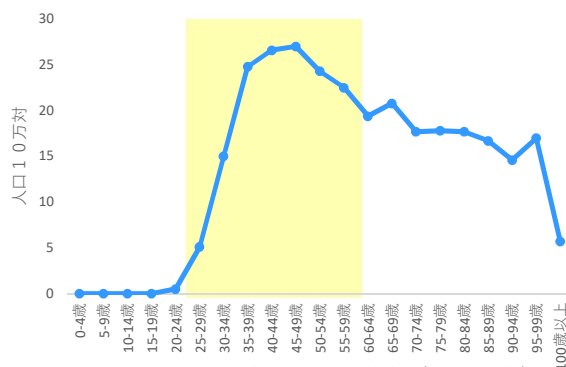
子宮頸部をブラシなどでこすって採取した細胞をガラス板の上に広げ、色素で染めて顕微鏡で観察する検査です。異常な細胞が見つかった場合は精密検査を行います。2)

生涯のHPV感染率



HPVは一生のうちで約80%の女性が感染した経験を持つと言われており、とてもありふれたウイルスです。

子宮頸がんは「若い世代のがん」です。



年齢階級別 子宮頸がん罹患率（2020年度）
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）

「子宮頸部細胞診」

- ・ 1～2分で終わる検査です。
- ・ 生理中を避けて検査することが望ましいですが、重なってしまった場合は健診医療機関にご相談下さい。

